新郡市医師会長の紹介

江別医師会

会長　笹浪　哲雄 先生

令和２年７月、笹浪哲雄先生が江別市医師会新会長に就任されましたので、インタビュー形式でご紹介したいと思います。（インタビュアー：川口　聡）

＜笹浪哲雄先生プロフィール＞
1955年（昭和30年）９月生まれ、65歳
1980年（昭和55年）札幌医科大学卒業（27期）
1984年（昭和59年）同大学大学院修了、医学博士号取得（旧表現で）、第一内科入局
1994年（平成６年）４月江別市野幌町にささなみ内科クリニック開院

――先生は、いつから理事として就任されて活動して居られますか？
笹浪会長：平成14年から医師会理事に就任。江別医師会の伝統である医師会研修会を担当する学術担当や野幌Ｂブロック代表で、ブロック会議を推進。また、特定健診を担当して、眼科の先生との調整役をしました。６年前くらい前から副会長に就任しています。
――前会長は、先生から見てどのようなお方でしたか？
笹浪会長：江別の老舗民間病院である野幌病院を発展させ、医療介護施設の充実をはかり、人材育成まで先頭に立って頑張る、行動力のある方です。情報の収集力があり、人物の移動にも敏感な方でした。
――いつ頃から前会長より新会長就任への打診があったのでしょう？
笹浪会長：約１年前からでしょうか。会合で同席した時や理事会が終わってから、ボソッと。
――就任にあたり、プレッシャーはありますか？
笹浪会長：プレッシャーはあります。全世界で「コロナテスト」を受けているタイミングですが、１人で猪突猛進するタイプではないので、皆さんとともに頑張りたいと思っています。
――江別医師会会員へ求めることや伝えたいことはありますか？
笹浪会長：困っていることや疑問に思っていることなど、あるいはこうしたらいいなど何でも、声を出して欲しいと思っています。

本日は、お忙しい中ありがとうございました。新型コロナウイルスに加え、近年では、自然災害も増えている印象です。医師会会員一丸となって乗り越えていきましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

北海道医報通信員
江別医師会理事　　川口　　聡

千歳医師会

会長　坂本 孝志 先生

本年７月、千歳医師会の新しい会長に坂本孝志先生が就任されましたのでご紹介いたします。

先生は昭和34年９月15日生まれで今年61歳になられます。旭川東高校を経て札幌医科大学に入学、大学時代は剣道部と釣り部に所属されております。剣道は５年生時、東医体団体戦３位の成績を収めておられます。釣り部は部員50人を超える学内最大のクラブを部長として仕切っておられました。昭和61年卒業と同時に第二内科に入局され高血圧の研究に従事、ヒューストン大学薬学部に２年間留学され研究を深めておられます。帰国後は道立北見病院循環器科、新日鐵室蘭総合病院透析科でお勤めされた後、平成16年千歳循環器クリニックを開業され人工透析、循環器、腎臓、内分泌代謝疾患を主に診療されております。千歳は奥様の出身地であることから開業を決められたほどの愛妻家で、医師会の行事など仲良くお二人で出席されているのをいつもお見かけいたしております。

現在も趣味は釣り（川釣り）で千歳川を中心に最近は道内の河川へ遠征し成果をYouTubeに動画投稿されているとのことです。また辛党であり以前は日本酒党でしたが、愛飲していた静岡の銘酒磯自慢が洞爺湖サミットの公式酒に採用され、ほとんど手に入らなくなったことから、現在はワイン党にかわりいつも宴会ではブルゴーニュ産のワインを持ち込みで提供していただいております。

平成21年から当医師会の理事として各種委員会活動に積極的に取り組まれ、また当医師会50周年記念行事開催に尽力されました。佐藤前会長の就任時より副会長として７年間サポート役を務められてきました。今後は急逝された佐藤前会長の方針を引き継ぎ医師会員同士の交流の活発化、千歳市民への啓蒙活動等に力を入れたいとの抱負を語られております。

先生におかれましてはこのコロナ禍、難問が山積していると思いますが、どうぞお身体に気を付けられリーダーシップを発揮しご活躍を期待しております。

北海道医報通信員
千歳医師会理事　　木田　雅也

就任ご挨拶

三笠市医師会

会長　石黒　敏史

2020年度の三笠市医師会定期総会で副会長から会長に就任した。

私が、市立三笠総合病院に赴任した当時（昭和59年）は、炭鉱や幌内線（鉄道）もまだ存在しており街も賑やかだった。その後の時代の流れとともに、炭鉱閉山、鉄道の廃線となり人口も漸減、11ヵ所あった医療機関と医師会員25名が、現在では、市立病院を含め３ヵ所､会員数も11名となってしまった。

医療を支えるうえで、医師、医師会の存在は大きい。市そのものの規模が小さくなったといえども、その規模に比例して仕事量が減ってゆくというものではない。会員の減少に伴い会員個々に対する負担は増してきている。

三笠市の高齢化率は、現在47％と高い。他の都市町村で暮らしている子供達から「いろいろ大変だろうし心配だから私達の所へ引っ越して来て一緒に・・・」と言われても、おいそれと永く住み慣れた三笠市を離れてゆくことはできない。当市を「終の棲家」と思う人達が多いのも事実である。

高齢者を主な対象としての支援・介護・地域包括医療などで、医師・医師会の果たす役割は大きく多岐に渡っている。会員数の減少のため小所帯の医師会ではあるが、何とか行政、近隣の医師、医師会、医療施設のご協力とご指導を仰ぎつつ、三笠市の地域医療を支えてゆければと願っている。

滝川市医師会

会長　小西　勝人 先生

今年度から滝川市医師会第11代会長に就任された小西勝人先生をご紹介いたします。

先生は地元滝川の出身で、平成６年に旭川医科大学をご卒業後、北海道大学第一外科に入局され、旭川厚生病院、北海道がんセンター、網走厚生病院、砂川市立病院、市立士別総合病院、苫小牧日翔病院で研鑽を積まれました。平成19年滝川で、そらち乳腺・肛門外科クリニックを開設され、以後、中空知の地域医療に大きく貢献されております。

先生は仕事熱心で、日々多くの手術を執刀されております。

傍ら、平成28年度より北海道大学遺伝子病制御研究所の招聘教員を務めており、がん免疫の研究にも力を入れております。

趣味のゴルフはハンディ７のシングルプレイヤーで毎年北海道倶楽部対抗競技に出場されております。普段は北海道倶楽部輪厚コースや真駒内カントリークラブでプレイされることが多いとのことです。また、将棋２段、囲碁３級、最近はサックスの演奏も始められ、常にアクティブな生活を過ごされております。

中空知圏域の医療情勢は道内の他の地域と変わらず人口数、医師数の減少および高齢化など困難な状況が続いております。多くの問題に対しての舵取りには多くの時間を費やすこともあると思われますが、医師会員も協力して乗り越えていけると信じております。

これからも健康に留意され、益々のご活躍を祈念して新会長の紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員
滝川市医師会監事　本川　和義

就任のご挨拶

深川医師会

会長　松本　三樹

本年６月の深川医師会総会で医師会長を拝命しました。これまで成田先生、林先生のもとで６年間副会長を務め、順番が回ってきた次第です。

さて、当地（北空知）でも人口減少と高齢化が進んでおり、本年度中に人口が３万人を下回り、10年後にはさらに20％の人口減が推定されています（他方、いわゆる後期高齢者は漸増します）。このような状況下で当会の会員数も減少しつつあり（現在は65名）、会員の平均年齢も既に60歳を超えています。

従って、中期的な課題としては、まず「これまで当会が担ってきた地域医療・介護などへの貢献」を継続させることが挙げられます。また、道内では数少なくなった「医師会附属准看護学院」も維持していかなければなりません。いずれにおいてもマンパワー、会員相互の連携と協力、財力などが不可欠な要素です。会員諸氏および関係者の皆様のご尽力を心からお願い申しあげる次第です。

短期的にはCOVID-19への対応が喫緊の課題であることは申しあげるまでもありません。当会でも９月１日現在まで５回以上の話し合いを重ねて、ようやく（情緒的な表現ですが）医師会として現実的に何ができるのかが浮かび上がってきました。深川市立病院と連携を保ちながら対応していく所存です。

最後に簡単に自己紹介を致します。1982年に愛媛大学医学部を卒業して旭川医科大学精神科に入局。大学院修了後、同科の助手・講師を務め（この間文部省長期在外研究員として米国に渡航）、1999年５月に現在の吉本病院に赴任しました。2013年からは同院の理事長を務めています。趣味といえるようなものはありません。以前はたまに70台でラウンドしていましたが、３年半程前に病気をしてからすっかりご無沙汰しています。最近は体力の衰えを実感し、時折ロードバイクで散歩しています。

今後ともどうぞよろしくお願い申しあげます。

お知らせ

―独立行政法人福祉医療機構の新型コロナウイルス対応支援資金をかたる不審な訪問・勧誘の注意喚起について―

◇医業経営・福利厚生部◇

独立行政法人福祉医療機構につきましては、新型コロナウイルス対応支援資金により医療関係施設等に対して支援を行っておりますが、当該資金に関して不審な訪問や電話等の情報が複数寄せられているとのことです。同機構は訪問や電話等の勧誘は一切行っておらず、不審な情報がございましたら下記連絡先までお問い合わせください。

【不審な情報に関する連絡先：独立行政法人福祉医療機構】

福祉貸付専用ご相談フリーダイヤル：0120-343-862
医療貸付専用ご相談フリーダイヤル：0120-343-863
※携帯電話等でつながらない場合：03-3438-0403
ホームページアドレス：https://www.wam.go.jp/hp/